台風18号による大雨等に係る被害　感染症に関するリスクアセスメント表（2015年9月14日現在）

	直近の発生状況（1．地域、2．全国）	地域・避難所で流行する可能性 1．低、2．中、3．高	公衆衛生上の重要性（罹患率・致命率・社会的） 1．低、2．中、3．高	**リスク評価 1．低、2．中、3．高**	コメント
避難所の過密状態に伴う感染症					
急性呼吸器感染症	1． 2．低	3	2	3	全国的に増加傾向にあるRSウイルス感染症等を始めとして避難所での過密状態が継続すれば発生リスクが高まると考えられる。気温の変動も避難者の体調に影響する。
インフルエンザ/インフルエンザ様疾患	1． 2．低	2	2	2	全国的に活動性は低いものの地域での集団発生の報告は散見される。避難所内で急激な発熱などを呈する者の発生が見られた場合には鑑別が重要である。
結核*	1． 2．低	1	2	1	発生リスクは必ずしも高くないが、咳が2週間以上続く場合には鑑別が必要である。治療中の避難者の場合は、確実な服薬継続が重要である。
水系/食品媒介性感染症					
感染性胃腸炎/急性下痢症（黄色ブドウ球菌・サルモネラ・キャンピロバクター・病原性大腸菌・ノロウイルスなど）	1． 2．低	3	2	3	避難所に出入りする個人の手指衛生対策強化に加えて、避難所等における食品衛生上の注意強化、トイレの衛生状態の保持が重要である。
洪水後あるいは瓦礫等に関連して注意する感染症					
レプトスピラ症		3	2	3	洪水による災害時に水や土壌に曝露された際に感染しうる。海外では時に大規模発生の報告もみられる。ヒトーヒト感染はない。
レジオネラ症		2	3	3	泥流や土壌曝露後に感染しうる。がれきや泥の撤去作業時にもリスクがあるため作業時にはマスク着用などの対策が重要である。ヒトーヒト感染はない。
創傷関連皮膚・軟部組織感染症		1	2	2	泥水に長期接触することでの皮膚感染症が含まれる。
昆虫媒介性感染症**		1	2	1	長期的にボウフラ等の発生により感染症発生の要因になることがある。
ワクチンで防ぐことのできる感染症					
破傷風	1． 2．低	2	3	3	外傷後、泥流や土壌曝露後に感染しうる。がれきや泥の撤去作業時にもリスクがある。

麻疹	1． 2．低	2	3	3	避難所に乳児等の感受性者が居住する場合、重症かつ空気感染により伝播する麻疹は常に最大級の警戒をする必要性がある。
風疹	1． 2．低	2	1	1	今年の発生は多くはないが避難所での発生があると、妊婦を含め免疫のない成人層を中心に感染する危険性がある。
日本脳炎	1．8月隣県で報告あり 2．低	1	2	2	蚊媒介性かつワクチン予防可能疾患として重要である。定期接種対象者の適切な接種が必要である
ムンプス（おたふくかぜ）	1． 2．中（過去2年同時期より多い）	2	2	2	
水痘	1． 2．低	2	2	2	空気感染により伝播する。
百日咳	1． 2．低（過去2年の同時期と同等）	2	2	2	
その他					
血液媒介性疾患（B型肝炎/C型肝炎/HIV）		1	2	2	
細菌性髄膜炎、ウイルス性髄膜炎		1	2	1	

*被災直後よりも避難所での滞在が長期になった場合に問題となる

** 必ずしも感染症を引き起こすとは限らないが、蚊やハエなどの害虫の発生にも注意する。対策については「避難所・応急仮設住宅等におけるハエ・蚊対策（一般の方へ）http://www.nih.go.jp/niid/images/ent/PDF/earthquake2011/flyleaflet.pdf」参照